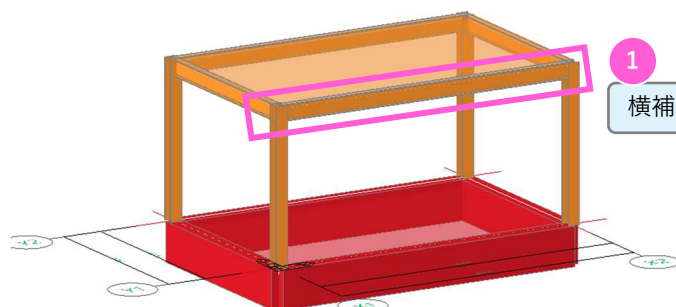


横補剛検討時にNG部材の取り扱い



1

横補剛NGの梁を配置しました。

チェックオンの場合

横補剛検討時NG部材の取り扱い

☒ 部材群種別をDにする

2

チェックオンにすると、
計算書「7.6.4.2 鉄骨梁保有耐力横補剛」でNG部材が1本でもある層は、
計算書「11.3.7 Ds値算定表」の柱梁群の種別がDとなります。

7.6.4.2. 鉄骨梁保有耐力横補剛の検定表

符号	階/位置	L	検定方法	断面	材料	iz	$\lambda z, \alpha$	L'	n	必要n	最大Lb	許容Lb	判定
2SG1	1F/ Y1/X1-X2	8000	均等	H-400x200x8x13	SN400B	45.6	175.4	-	0	1	8000	4332	NG
			端部(左端)	H-400x200x8x13	SN400B	45.6	1.2	977	0	1	8000	1625	
			端部(右端)	H-400x200x8x13	SN400B	45.6	1.2	977	0	1	8000	1625	

11.3.7. Ds値算定表

方向	階	柱・梁群		耐力壁群		ブレース群		合計	β_u	Ds
		Q[kN]	種別	Q[kN]	種別	Q[kN]	種別	Q[kN]		
X正	1F	162.0	D	0.0	-	0.0	-	162.0	0.000	0.40
X負	1F	162.0	D	0.0	-	0.0	-	162.0	0.000	0.40
Y正	1F	162.0	D	0.0	-	0.0	-	162.0	0.000	0.40
Y負	1F	162.0	D	0.0	-	0.0	-	162.0	0.000	0.40

チェックオフの場合

横補剛検討時NG部材の取り扱い

☐ 部材群種別をDにする

3

チェックオフにすると、
計算書「7.6.4.2 鉄骨梁保有耐力横補剛」でNG部材があっても、
計算書「11.3.7 Ds値算定表」では部材の種別通りに集計します。

7.6.4.2. 鉄骨梁保有耐力横補剛の検定表

符号	階/位置	L	検定方法	断面	材料	iz	$\lambda z, \alpha$	L'	n	必要n	最大Lb	許容Lb	判定
2SG1	1F/ Y1/X1-X2	8000	均等	H-400x200x8x13	SN400B	45.6	175.4	-	0	1	8000	4332	NG
			端部(左端)	H-400x200x8x13	SN400B	45.6	1.2	977	0	1	8000	1625	
			端部(右端)	H-400x200x8x13	SN400B	45.6	1.2	977	0	1	8000	1625	

11.3.7. Ds値算定表

方向	階	柱・梁群		耐力壁群		ブレース群		合計	β_u	Ds
		Q[kN]	種別	Q[kN]	種別	Q[kN]	種別	Q[kN]		
X正	1F	162.0	B	0.0	-	0.0	-	162.0	0.000	0.30
X負	1F	162.0	B	0.0	-	0.0	-	162.0	0.000	0.30
Y正	1F	162.0	B	0.0	-	0.0	-	162.0	0.000	0.30
Y負	1F	162.0	B	0.0	-	0.0	-	162.0	0.000	0.30